

AI 革命相場はバブルとなるか

黒瀬 浩一（りそなアセットマネジメント株式会社）

AI は社会に大きなインパクトを与えることになると考えられる。技術史において汎用技術は特殊技術と結びつくことで、社会に大きな変革をもたらした。AI は常時稼働と常時推論を特徴とする汎用技術として、既存の産業を変革し、企業など組織の運営や個人生活の在り方を根底から変革する可能性がある。

AI は発電・送配電網、AI 半導体、データセンター、大規模言語モデル、アプリケーションの 5 層構造から成る巨大なインフラに支えられて稼働する。巨大なインフラの構築に向けて、空前の規模の資金調達と投資ブームが始まっており、光電融合や水冷など周辺産業の技術革新も誘発している。

AI が社会にもたらす変化について、見方は大きく割れている。最も楽観的なのは、AI は蒸気機関に匹敵する画期的な技術革新となり、産業革命に匹敵する変革が起きるとする見方だ。一方、正反対の見方もある。AI が人間の労働を代替することで大量の失業が発生し、そこから派生して住宅ローンの大量の債務不履行、担保処分による売却で住宅価格の大幅な下落、さらには不良債権問題から深刻な金融危機に至るという悲観的な見方だ。

どちらに向かうかについて、現時点では世界的な株価の高騰に見られるように、前者の楽観的な方向に向かっている。しかし、一部にはバブルとの指摘もある。バブルの生成と崩壊について、金融界にはデータの蓄積と先哲の知見がある。過去のバブルを帰納的に分析した経済学者として、シラー、ヴァーノン・スミス、ミンスキー、ガルブレイスらが挙げられる。こうした知見を総合して考えれば、現時点ではまだバブルとまでは言えないものの、将来的にバブルの生成、そして崩壊となるリスクはあるだろう。

それに備えて公共政策として現時点で出来ることは 2 つある。1 つは、社会、企業、個人がレジリエンスを高めておくことである。近年、コロナ禍、トランプ関税、イランでの戦闘など外的ショックに対し世界経済のレジリエンスが発揮された。この構造を強化することである。もう 1 つは、最悪を想定して出来るだけ回避する政策を実現することだ。国際政治では、移民排除、社会の分断、自国中心主義、反グローバル化など 20 世紀前半と現在の類似点が指摘されている。AI 革命相場のバブル崩壊が、1929 年の世界的な株価暴落が第二次世界大戦の遠因となった歴史に重ならないよう、国際協調体制を強化することが肝要である。

以上